

## 会 議 録

会議名	第6回 宇都宮市環境基本計画ワーキングチーム会議					
開催日時	平成14年 5月30日(木) 午後7時00分~午後9時00分					
開催場所	宇都宮市役所 14大会議室					
出席者	ワーキングチームメンバー					
	小磯 順子		葛谷 理子		眞野 潤子	
	大野 邦雄		森本 久子		仁平 隆史	
	高沼 恭一	欠席	手塚 賢次		三宅 徹治	
	平野 正人		斉藤 軍夫		児玉 博利	
	林 常夫		江川 靖		村上 孝子	欠席
	事務局(赤石澤環境企画課計画調整担当主査,他5名)					
公開・非公開	公開					
傍聴者	2名					
議 題	市民・事業者の環境配慮指針について					

発言者	内 容
仁平委員	<p>始めに配慮指針について確認したいことがあります。先日事務局から配慮指針の他市の事例として春日部市の薄い3分冊になっているものを頂きましたが、宇都宮の場合はどの位の印刷部数を予定していますか。最終的には、市内の各家庭や各事業者に配布するとなると予算的な縛りもあるでしょうから、内容もどの位のボリュームの配慮指針を考えているのかお聞きしたいと思えます。</p>
事務局	<p>前回の配慮指針については、環境管理計画の2年後に策定したということで時間的な乖離が生じてしまいました。また、配慮指針に基づいてお手元にありますチェック表というものを平成9年に全世帯に配布した経緯があります。また、平成12年にはこのチェック表についてアンケート調査を実施しました。その結果、項目が多すぎて活用しきれない、また、内容が細かすぎるなどの意見が多くありました。</p> <p>そのような経緯を踏まえまして、今回の環境配慮指針につきましては、環境基本計画の中に盛り込むことにより、計画の目標に向けて市の施策と併せて、市民や事業者も一緒になって取り組んでいくんだということを示していきたいと考えております。印刷部数につきましては、今のところ計画書本体は300部、概要版は3,000部程度を予定しております。また、配慮指針の周知方法や啓発方策につきましても、委員の皆さんからの意見を頂ければと考えています。</p>
葛谷委員	<p>今回の市民、事業者の環境配慮指針と、次回の地域別環境配慮指針はどう関わってくるのでしょうか。</p>
事務局	<p>市の配慮指針につきましては、既に本市ではISOに基づく各種の率先行動に取り組んでおりますので、これらの活動を市の環境配慮指針として位置付けていくものとして整理していきたいと考えています。</p> <p>また、地域別配慮指針は、地域において開発事業者などが環境を利用する際に配慮すべきことについて、広い意味での情報としまして、歴史・文化財や動植物など、地域における貴重な環境資源を示していくものです。</p>
仁平委員	<p>今回の配慮指針は環境基本計画の中に盛り込まれるということですから、今のところは、配慮指針を実際に取り組んでもらうコア(単位)に配布されるという段階にはなっていないということですね。これから検討するというのも出てくるのでしょうか。</p>

事務局	<p>前回のよう全世帯に配布するという事もあるかもしれませんが、現在であれば、広報紙に掲載したりインターネットから自由に取り出せるなどの活用方法もあります。また、どうしても全世帯に配布した方がよいということであれば、簡易印刷で対応するという方法も取れるとは思いますが。</p>
仁平委員	<p>全世帯に配布することを想定して、内容を絞ってまとめていくように考えていった方がよいのか。あるいは計画書の中に盛り込むのであれば、個別の指針ではなくて、環境項目毎に、市が行うこと、市民が行うこと、事業者が行うこと、というふうに羅列的にまとめていった方が、みんなで取り組むんだという見え方が出来るのではないかと考えたものですから、お聞きしたのです。</p>
三宅リーダー	<p>私なりの理解では、配慮指針は環境基本計画の中のある重要な一部分として存在して、但し活用方法は色々な切り口があるのだらうと思えます。</p>
葛谷委員	<p>私も、必ずしも全戸配布でなくてもよいとは思いますが。結果的に多くの人に活用して頂けるような方法があればと思えます。数年前に栃木県でも環境に関するアンケートを行っているのですが、一般の市民の方の中でも、地球環境問題の深刻さに関する認識というのは段々と高くなってきているのですが、では自分達が実際に何をしたら良いのか、ということが分からないという人もかなりいました。ですから、先ほど事務局からチェック表のアンケート調査結果で内容が細かすぎて使いにくい、というような意見もあったようですが、私は抽象的ではなく、出来るだけ具体的に細かく書いた方が分かりやすいのではないかと思っています。</p>
三宅リーダー	<p>あれもこれもだと細かすぎるとのご意見と、一方では抽象的だと分かりにくいというご指摘もあって、バランスが難しいところもあると思えます。</p>
大野委員	<p>細かすぎると一つの側面もあるかもしれませんが、それは使い方にもよるのではないかと思えます。環境にとって何が良いのか等となりますと本当は細かい方がよいのですが、実際に冊子を配って、さあ皆さん取り組んで下さいと言っても、細かく見る人はあまりいないでしょうし、逆に細かいと見なくなってしまうこともあるかもしれません。しかし、せつかく作るものですし、実際に利用、活用されて初めて役に立つものですから、細かく作るとしまして、例えば自治会や学校を通じて教材として使用したり、環境アドバイザーのようなものがあれば、そこから色々な段階を利用して内容の説明をしていくこともできます。それによって、皆さんの理解も深まり、日常生活でも取り組んでいけるのではないかと思えます。配慮指針が本当に役に立つかというのは、使い方次第ということですが、まずは皆さんによく知って頂くということが大切だ</p>

<p>児玉委員</p>	<p>と思います。</p> <p>ここに書かれている委員の皆さん意見は、基本的にはみんなよいものだと思いますので、最終的なまとめ方は事務局に任せるとしても、この会議でたくさんある項目の一つひとつをチェックする必要は無いと思います。実際にはこれで大衆を動かしていこうとしているわけですが、ではどうしたら大衆を動かすことができるのかを考えてみますと、自分が興味を感じたり、利害を受けるようなことがないと基本的には動かないのではないかと思います。私の場合もこれまで買い物袋を持っていくことはしていませんでしたが、それによって自分の子供の将来に対して何らかの悪影響を及ぼすとか、逆にそれをする事によってこんな利益があるというような前向きな提案がなければ、大衆は動かないと思います。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>私も各項目を一つひとつチェックしようとは思いませんし、皆さんも資料を読んでいらっしゃると思いますので、今日は漏れがないか、又は分からない言葉などを確認していこうということです。</p>
<p>森本副リーダー</p>	<p>どうして細かくやっていく必要があるのかということが伝わらないと、みんなが聞く耳を持たないのかなと思います。ですから、みんなが協力していかないと持続可能な社会にはならないんだということを強調して、その上でこういうことをやっていきましょう、とならないとうまくいかないのかなと思います。</p>
<p>手塚委員</p>	<p>こういった指針というのは、やはりあったほうが良いと思いますし、ではお飾りにしないようにする為には、その先の伝え方が大事なんだと思います。子供に対しての伝え方とか、そういう具体的な方法の話はまた別にあって、どうせみんな読まないからと考えてしまうのではなくて、きちんとした指針があって、それをどうやって伝えていくのかという話になるのだと思います。</p>
<p>林委員</p>	<p>私は農業者の立場ですが、江戸時代なんかはちゃんと循環型の社会が出来ていたんですが、今は物が溢れすぎているから問題なんです。お金を出せば何でも買えますし、ごみとして捨てても焼却場へ運ばれて税金で処分してくれます。生活が豊かですからリサイクルがなくなっても危機感を感じない人が多いのではないのでしょうか。仮に、電気を1日を使わないようにしましょう、若しくは水道の水を2時間使わないようにしましょう、として実際にやってみないと、自分達の生活にどんなことが起きるのか分からないのです。</p> <p>最近、メダカが棲める環境が良い環境の指標ということになっているそうですが、昔ならどこでも泳いでいました。それがほんの30~40年の間で環境破壊によっていなくなってしまったのです。この物が溢れている時代ですが、もう一度原点に帰るといっても、とても大事なことはないかと思います。</p>

三宅リーダー	<p>私は、環境に対して何かをしなければいけないと考えている人は本当は多くいると思っています。けれども、実際に何をしたら良いのかよく分からないんだ、という時に配慮指針は一つの道標になるのだと思います。</p> <p>ですから、いきなり頭からこれを全部やりなさいということではなくても、出来るところから徐々に始めていっても良いのだと思っています。</p> <p>そういう意味で、皆さんが書いてきて下さった意見もありますから、各項目を一つひとつ見るということではありませんが、気に係るところを確認していこうということに進めたいと思います。葛谷さんの意見で、買い物をする時には、「生産者への公平な分配がされているものを選ぶ」とありますが、具体的にはどういうことですか。</p>
葛谷委員	<p>例えば海外からの輸入品の話ですが、アフリカなどで自分達の食糧となる物を作らずに、換金できる輸出用の作物を栽培しているということがあります。</p> <p>その土地に元々あったものではなくて、しかも現地の人達が口にするものでもないというのは、広い意味で環境にも良くないことだと思います。</p> <p>少し分かりにくいお話かもしれませんが、これも環境問題の一つであると認識しておりましたので、意見として出しました。</p>
事務局	<p>以前、小磯さんがおっしゃっていたプランテーション作物についてのお話しと近い意見ですね。</p>
森本副リーダー	<p>地元の農産物を大事にしましょうということにもなりますね。</p>
林委員	<p>農業の方ではそれを地産地消と呼んでいます。先程江川さんとも話したんですが、新潟の米をわざわざ栃木で作る必要はありませんし、ねぎを九州から飛行機で持ってくるのと、地元の新里でとれたねぎを皆さんに届けるのでは環境にも全然違います。</p>
葛谷委員	<p>生産者と消費者が近ければ、例えば、家庭等から出た生ごみを堆肥化して生産者に返すことによって、循環が生まれることにもなりますね。その上の「地元で生産された品、旬のものを選ぼう」という意見と共通するところがあると思います。</p>
森本副リーダー	<p>地産地消、旬のものを進んで食べよう、ということですね。</p>
林委員	<p>地産地消ということでは、ろまんちっく村でも市内の旬のものを毎月送ろうということは何年か前からやっています。1箱で2千円程度だったと思いますが、あまり需要がない状況にもあります。</p>

<p>仁平委員</p>	<p>最近は、スーパーなどでも地元産品コーナーがあります。若干値段が高くてこそちらのほうが売れ筋としては早いようで、そういう意識も段々出てきているのだと思います。</p>
<p>林委員</p>	<p>生産者が分からないと、消費者も信用しなくなってきています。そういう意味でも地産地消というの大切だと思います。</p>
<p>小磯委員</p>	<p>旬なものを食べるというお話がありましたが、これを食べれば健康になるというような一般的な栄養学のお話では、それとは異なる方向に進められていることもあります。例えば1日100gのお肉を食べましょうという場合、みんながそうするとすると、やはり輸入品にも頼らなくてはならないし、国内で効率良く生産するには、狭い牛舎にいっぱい押し込んで、病気にならないように抗生剤を使用したりしないとたくさんのお肉は生産できないわけです。環境に良い生活と健康に良い食生活は一致していいはずなのに、一致してこないということで難しいところもあります。</p>
<p>森本副リーダー</p>	<p>確かにそういうことも認識できると思います。今回については、環境の視点からの配慮指針ということですので、そういうこともベースにあるということはしっかり認識した上で、いづれは連携していかななくてはならないとは思っています。</p>
<p>大野委員</p>	<p>先ず配慮指針のまとめ方について考える必要があると思います。この資料にある括りや項目については、事務局の方で前の配慮指針や他市の事例を踏まえながら考えて頂いた案でありますし、皆さんからの意見もありますので、基本的にはそれで収められると思います。せっかく作ったものが有効に活用されないという意味がないですから、例えば春日部の場合ですと、項目についてそれによって数値がどう変わるといったことが書かれていますし、相模原についても具体的な効果について書かれています。市民の方が配慮指針を活用するかどうかは、関心があるかないかが前提となりますが、その関心を醸成するには、今のままだと地球環境はこうなりますよ、というような共感を与えてあげて、それと対比して、そうならないようにこういうことを行ったらどうでしょうか、という配慮指針があるということだと思います。</p> <p>例えば、これをやることによって二酸化炭素がどれだけ削減できます、という具体的な数値があると、実行することについても関心が高まりますし、自分が1年間これをやれば、これだけの二酸化炭素の削減に役立っているという目安にもなります。まとめ方としては具体的な数値、効果や金額で示すことも必要ではないかと思いますが、配慮指針の使い方が重要だと思います。</p>

児玉委員	<p>配慮指針の括りとしては、よくまとまっているとは思いますが。周知の方法になりますけれども、これを全部印刷して全世帯に配布することではなくても、広報うつのみやで、いくつかの切り口で継続的に掲載していくということもありますし、インターネットのホームページから見ることも出来るでしょうから、方法はあると思います。後は抽象的だと当然分からないということもありますし、あまり細かすぎても逆に読む気が起きないということもありますのでその辺りのバランスだと思います。</p>
大野委員	<p>私も広報紙で継続的に周知するには良いことだと思います。始めは大きな基本構想から入って、次に具体的な14の環境項目について、皆さんに実施してもらうことにはこんなことがあります、というふうに全体像を把握できるような方法が一つあると思います。それから細かい部分については、教材として様々な機会や団体を捉えて有効に活用していく方法があると思います。</p>
三宅リーダー	<p>一つひとつの項目について、その背景を詳しく説明するのは親切な方法だと思いますが、やはり細かくなってしまいます。今回は、基本計画に盛り込むということなので、アクションに繋がる部分を明記して、あとは例えばデータ集などとして、適宜参照できるようにするなど整理した方がいいのかなと思います。</p>
仁平委員	<p>以前に環境基本計画の全体構成ということで提案させて頂きましたが、始めに計画書の前段として宇都宮市の環境特性とか課題が出てきて、次に課題毎にどういう対応を行っていくのか、その中に配慮指針というものがある、更に市、市民、事業者が連携して取り組んでいく行動プロジェクトとして整理していく、というふうに考えていくのがいいのかなと思います。</p> <p>そういった流れの中で、300部という報告書の数を考えますと、配慮指針のまとめ方としては、全部詰め込むということではなくて、基本的なところを抑えることで良いのではないかと思います。さらに詳細なものについては、別の形で編集することも宜しいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>基本計画のまとめ方としましては、～の環境項目毎に以前配布した報告書等を基に現状や課題として示して、それに対して前回皆さんと一緒に考えました目標を掲げて、目標の達成に向けて市、市民、事業者がどういった行動を取っていけばよいかを明らかにしていきたいと思っております。</p>
三宅リーダー	<p>私の会社での行動例として、たばこのケースについて3つに分別して捨てるように徹底しています。実際の量としては、会社全体で見てもたいしたことはないのですが、それを徹底することによって、一人ひとりの意識が大きく変わってきたということがあります。そういう意味では、配慮指針の一つひとつの行</p>

<p>大野委員</p>	<p>動の成果について、必ずしも数値の裏付けがなくても、教育という要素が大きい部分もあるのかなと思います。</p> <p>私もそういう部分もあると思いますが、その側面として、関心を持たせるためには、やはりどのくらいの効果があるのかを示しておく必要があると思います。効果が何も示されない状況ですと、なかなかそこまで行くのは難しいのかなと思います。日常生活における配慮指針などは、ある意味では全国共通の部分でもありますので、この中で宇都宮らしい取り組みをいかにするのが必要ではないかと思います。配慮指針の有効性はとてもあると思いますので、まとめ方は別としてもデータなどは出来るだけ細かく出していただいた方がよいと思います。</p>
<p>葛谷委員</p>	<p>データも大事でし、それと同時に大勢の人に行なってもらうためには、分かりやすい、やりやすいということも大事だと思います。春日部市の配慮指針の場合は、全世帯には配ってなくて学習会等の時に活用しています。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>では、事業別の配慮指針についてなにかございますか。</p>
<p>斉藤委員</p>	<p>これからは、ISOの認証を受けられないような会社は、良い商売が出来なくなると言われています。また、建設業の場合は廃材等について、マニフェストに基づいて管理しなければならないシステムになってきていますし、逆にそういったことがきちんと出来ない会社は、良い商売が出来ないということで、段々そういう方向に進んできていると思います。しかし、身近な紙の再利用などについては、まだまだ意識が低い人も多いのかなと思っています。</p>
<p>平野委員</p>	<p>配慮指針はよくまとまっていると思います。企業として利益を求めていく中で、事業活動においてこういったことを行っていくには、コストと対費用効果ということを経験条件として考えなくてはならない部分があります。</p> <p>例えば、低公害車を導入する場合でもコストは2～3割高くなりますし、項目として掲げるのは当然だと思いますが、こういった経済状況の中で、それぞれの会社が実際にどの程度出来るのかなと思うところもあります。</p>
<p>葛谷委員</p>	<p>今はこういう経済状況にありますが、環境基本計画はこれから9年間の計画です。今の視点で目標達成が難しいから載せないということではなくて、やはり取り組んでいく必要があるものは載せて、出来ることから行っていけば良いと思います。</p>
<p>児玉委員</p>	<p>先ほど意識付けはなかなか難しいという話がありました。本論と少し離れますが、例えば消費税を2%上げて環境目的税として使うとした場合、皆さんは承</p>



	<p>知できますか。つまり物を買った人がそれだけ負担することになります。それを低公害自動車等を買う人や企業への助成をするなど、税金という手段で公平に環境への取組みを行なっているところへ分配する。</p>
葛谷委員	<p>お金をかければ環境が良くなるということではないですが、これまで大量生産、消費をしてきたわけですから、ある程度そういうことも必要ではないかと思えます。</p>
仁平委員	<p>消費税が良いかは別にしても、炭素税など別の形での税負担の問題はいつれ出てくるのではないのでしょうか。</p>
三宅リーダー	<p>事業者の立場から見ると環境はコストを圧迫するというご意見がありました。私の会社の例ですが、ゼロエミッションに取り組んでおり、以前は廃棄物を経費をかけて埋立てていましたが、現在では殆ど埋立てなくなりました。過渡的には経費はかかりましたが、廃棄物の発生抑制から最終的にはリサイクルまでに取り組むことによって、総体的にはコストが安くなりました。全てがそのようにうまく行くものではないかも知れませんが。必ずしも環境はコストを圧迫するとは決めつけずに、出来ることから行なっていきましょうということになるかなと思います。</p>
手塚委員	<p>以前に東京都で、事業者に対して車両の使用を10%抑制する期間を設けて、その結果を報告させるということを実施したことがありました。各社の方針だけに任せるだけではなく、ある程度目標を持たせて取り組ませることも必要なのかなと思います。</p>
三宅リーダー	<p>配慮指針を教材としても活用するという意見がありました。</p>
江川委員	<p>配慮指針の内容はいいと思いますが、実際に子供たちに教えるとなると、少し難しい部分もあります。例えば、化学物質の少ない商品を選んだり環境対策に熱心なメーカーの商品を選ぶということをより具体的に教える場合、ではどここのメーカーのどういう商品が良いのかという話にもなります。</p>
葛谷委員	<p>化学物質の使用については商品に表示されていますので、買い物の時には、そういった表示を良く読むようにするというだけでも良いと思います。</p>
大野委員	<p>先程も言いましたが、そういった解説集やデータ集があれば良いと思います。</p>
小磯委員	<p>市民、事業者の配慮指針の項目について、どの項目もひと並べにするのではなく、優先順位を付けた方が良いのではないかと思います。例えば、エアコンの</p>

<p>大野委員</p>	<p>設定温度を換える前にエアコンを使わない方がよいのではないかと、ハイブリッドカーに買い換える前に車を使わない生活を考えた方がよいのではないかと、というふうに、これを行なう前にもっとこれをやった方がいいとしていったらよいのではないかと思います。</p> <p>最初からこちらで優先順位を付けて載せるというのは難しいのではないのでしょうか。そういったことはデータとして載せて、使う人ができるところから取組んで行ける方がよいのかなと思います。</p>
<p>斉藤委員</p>	<p>配慮指針を全て網羅的にまとめようとする大変な量になりますし、私たちがいくら考えても足りない部分があると思います。ですから、例えば買い物に行く時は、まずは買い物袋を持参するところから始めましょう、というような形で、みんなが取り組める必要な項目をいくつか絞って挙げていくことによって、ここに載せたものは全て優先する項目なんだという認識になるのだと思います。</p>
<p>眞野委員</p>	<p>私は総合グラウンドの近くに住んでおり、比較的緑に恵まれています。中心市街地などは緑が減少してきていますので、もっと行政の方で宇都宮を緑あふれるまちにしたいと思っています。また最近では大型の店舗も増えてきていますから、事業者の方でも駐車場の周辺などを緑化するような取り組みがもっと行ってほしいと思っています。緑には潤いがありますし、紫外線を防いだり二酸化炭素の吸収など様々な恩恵がありますので、もっと街の緑が増えればよいと思っています。この配慮指針に書いてあるようなことは、私は行なっていますし、私以上に子供も行なっています。先ほど児玉さんもおっしゃっていましたが、これをするとこれだけ環境が悪くなるというような脅しも少しは必要だと思いますし、家庭での教育というのがとても大切だと思います。</p>
<p>葛谷委員</p>	<p>日常生活における配慮指針の最後に、全ての市民に関わる配慮指針ということで意見を出しました。宇都宮の自然環境の面における特徴の一つに宇都宮丘陵の緑がありましたが、現在は住宅地の進出等で緑が失われており、市街地の緑の面積が少なくなっています。ですから、これからは失われた緑を創出するという考え方が大切だと思います。草花ではなく樹木を植えて、市の中心部を車を降りて散歩したいまちにしていきたいということで挙げさせて頂きました。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>今日は皆さんから幅広い意見が出まして、この場で配慮指針をまとめるのは難しいですが、お互いの考え方については共通理解が図れたということで、事務局の方に預けたいと思います。</p>

